

学校だより



埼玉大学教育学部附属特別支援学校
平成30年度学校通信 No. 4
平成30年9月3日



2学期を迎えて

神田 佳明

この夏は非常に暑く、特に7月は気象庁が「災害」とまで表現した猛暑が続きました。夏休み開始直後の7月23日には熊谷市で観測史上最高の41.1度を記録し、日本一となりました。高校野球の方は第100回という大きな節目の年でしたが、優勝した大阪桐蔭高校よりも準優勝した金足農業高校の方がクローズアップされた感がありました。いろいろなドラマを生んだ夏でしたが、どのように過ごされたのでしょうか？

私がこの夏に読んだ本の中で、一番面白かった本は、稲垣栄洋著「植物はなぜ動かないのか 弱くて強い植物のはなし」というものでした。

中学・高校生の読者を意識した植物学の本なのですが、「強さとは何か」など、いろいろと考えさせられる内容が分かりやすく説明されていました。「『分類』は人間が決めたもの」の章は、印象に残ったものの一つでしたので、少々長いですが以下に引用します。

「日本には47の都道府県があるが、地面の上に県境が引かれているわけではない。都道府県の境は、地図の上で人間が決めたものである。富士山のすそ野は、どこまでも広がっている。一体、どこまでが富士山なのだろうか。明確な境界があるわけではないから、日本全体が富士山ともいえるし、富士山と言う実体などないのだとも言える。本当は、自然界にあるものに一切の境はない。境目というのは、分類し、理解をするために人間が勝手に定めたに過ぎないのである。」

日本一の高さの富士山を「実体などない」と表現してしまうところに著者のすごさを感じてしまったわけですが、これを読み、「障害」ということに想いが飛びました。

近年、「障害」という概念は、「あるか、ないか」という二分法ではなく、境目が無い連続的にとらえる考え方が主流になってきています。「連続体」と訳されることの多い「スペクトラム」という言葉も使われることが増えました。自閉スペクトラム症という言葉もその一つです。

この著者の言葉を借りれば、私たち全員が障害があるともいえるし、障害という実体などない、人間が勝手に定めたに過ぎないのである、ということかもしれません。



さて、ちょうど一年前の夏、国の方から働き方改革とともに大学・附属学校の在り方について提言が出されました。本校でもこの提言を受け、別紙のようにグランドデザインを改めました。本校の使命や教育方針を整理し、本校の目指す方向性をより明確化したものとなります。

そのグランドデザインにおいて、本校の使命の一つとして掲げた「保護者とともに子どもの成長を支える学校」について、本校教職員全員で改めて確認すべく、この夏、外部講師を招き、研修を行いました。

子どもたちが安心して学習できる環境を作ります
保護者との連携を一層大切にしていきます

基本に立ち返り、教職員全員がこのことを大切にするとともに、校内巡視などを通して、校長・副校長が指導を強化していきたいと思います。

今日からまた学校生活がスタートします。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。